（こくさいか山口 2006年7→9月号掲載記事）

～おじいさんと鳥かご～

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
礒田　将史

2005年9月より山東省青島市に駐在し、青島市人民政府外事弁公室にて勤務しております。素人の書く記事ではありますが、中国特に青島の経済、文化、生活事情の現状を知っていただき、少しでも中国を身近に感じていただければ幸いです。

青島の朝は多くの野鳥の声で始まります。鳥の種類やその泣き声には疎い私ですが、こちらに来た当初、多くの鳥の鳴き声にとても驚いたものです。しかし、その鳴き声のすべてが野鳥ではなく、実はお年寄りが飼っているものも多いと知ったのは、こちらに来て１ヶ月ほどたってのことです。

朝５時３０分。街のおじいさんたちが、手作りの布をかけた大きな鳥かごを手に、近くの公園へと集まって来ます。皆が集まったところで一斉に布を取ると、鳥たちは待ち望んでいたかのように、思い思いに鳴き始めます。おじいさんたちは「わしの鳥が一番いい声で鳴くだろう。」と飼い鳥の鳴き声を競うのです。この鳥で主なものは「コウテンシ」というヒバリの仲間で、いろいろな鳥の鳴き声をまねる事から中国では「百霊」と呼ばれています。かごの中の水飲み場とえさ場は陶器でできていて、青、赤で描かれた独特の文様や、漢文の書かれたものなど飼い主のこだわりが見られます。かごは木に掛けられることが多く、またかごが目立たない色で統一されているため、遠くから見るとかごは木々と同化し、周りの風景と溶け込んでいるような印象を受けます。かごが公園の風景を損なうことなく、うまく自然と調和しているのです。そして、「最近は暖かくなったな。」「昨日孫が遊びに来て、数字の数え方を教えたんだよ。」と会話を楽しむのがおじいさんたちの日課です。九官鳥のかごの前では小学生は決まって「ニーハオ」と声をかけ、周囲の人々の笑いを誘っています。鳥のさえずりと共にお年寄りたちが子供たちの通学路を守り、彼らの成長を見守っているという印象を強く受けました。

近年の中国は都市化により、以前のような大家族での生活が少なくなりました。「かわいくさえずる鳥たちは、朝を告げると同時に、わしの大切な家族なんだ。我が子や孫を思いださせる。」あるお年寄りが核家族化の進む中国の現状を話して下さいました。しかし、むしろ私には彼らが鳥を飼うのは、本来中国の人々が特に「外の空気を吸って運動する」ことが好きなことに由来することにあると思っています。毎朝お年寄りたちは公園での友人や、そして私のような異国人との会話を心から楽しみ、その時間をとても大切にしてくれています。

中国を旅行される際には、ぜひ旅行地の早朝の公園を訪れてみてください。人々の穏やかな人柄と心なごます鳥の鳴き声に接することで、旅行の合間にゆっくりとした時間の流れを感じていただけるはずです。